

子育て北向き観音

元町公民館 中村友多佳

星川通りを散策していると魚勝さんの西側（星川の南側）にお堂があり、その中にひっそりと佇む観音様にお会いすることができる。

この「子育て観音」は、昭和三十年代まで魚勝さんをはじめ、付近の人々の手により観音様として、祭日の十日は賑やかな祭りが行われていたのを記憶している。

昔、「馬場守」という人が荷馬車引きで生計を立てていたが、明治二十六年に愛馬の「シロ」が、日射病で倒れてしまった。その馬は、必至の介護の甲斐もなく、とうとう亡くなってしまった。馬場守夫婦は深く悲しみ、毎日愛馬の供養を怠らなかったという。

亡くなってからちょうど百日目、目の前に観世音菩薩が現れ、「白馬のために観世音を祀り供養せよ。さすれば、人々の願い事を叶えてつかわす」とのお告げがあった。早速、守は近所の人々に語り、星川に面してお堂を造り、子育て観世音を勧進した。

観世音が北向きであったため、いつの間にか北向き観音という名で親しまれ人々の信仰を集めていった。

大正十四年四月五日の熊谷大火の際にも観世音自体の類焼は免れたが、それは日進館製糸工場（その後（株）熊谷製糸工場と改名、後に熊谷玉糸会社と合併）の敷地内にありその広大な敷地は全焼してしまったのである。

大火の後、製糸工場が石原駅前に移転することになり、それを機に魚勝さんの屋敷の一隅に移し、ご主人の川柳政人氏と小林伝次郎氏らの手によって再興されたと聞いている。

今でも毎日夕方になると近所の方々により、ご供養がおこなわれ大切に守られております。



（熊谷市公連だより 第1号 平成18年より）